

### ●フレーム

#### ○フレームボディー

ライン取りの自由度向上をねらい、加減速時の安定感や、旋回時の接地感を向上させることでサーキット走行における完成車の高い運動性能に寄与させるため、より高精度な剛性チューニングが可能となる薄肉GDC(重力金型铸造)製法を採用。肉厚を最低2mmに成型した軽量なアルミ製ダイヤモンドフレームとしました。従来モデルに比べ、縦剛性を18%、ねじれ剛性を9%それぞれアップし、横剛性を11%ダウンさせることで高出力を受け止め、かつ高い減速時の荷重に耐える剛性と、ねらいとする運動性能を成立させました。

また、フレームボディーを構成する4つのパーツを溶接で組み立てた後に、計6箇所エンジン締結部の加工を施すことで完成車の寸法精度を高め、より安定した性能の提供を可能としています。

#### ○リアサスペンション

リアサスペンションにはプロリンクを採用。併せてリアクッション上側はブラケットを介してエンジンブロック後部に締結する構造\*としました。この構造によりフレームボディーの上側クロスメンバーを不要とすることで、一層のフレームボディー剛性最適化を図るとともに軽量化にも寄与しています。また、後輪からの入力エンジンブロックに分散されることでヘッドパイプに伝わる外乱を低減し、直進時の安定感とリアインフォメーションをバランスさせています。

これらにより、RR-Rのフレームボディーは、サーキットにおいてライダーに高い信頼性を提供します。

\* 特許出願中:エンジンブロック後部にブラケットを介してリアクッション上側を締結する構造。

■フレームボディー  
(CGイメージ)



■エンジンマウント、プロリンク構成 (CGイメージ)

